3月度 議員懇談会

挨拶する八木会頭

3月2日午前11時より福井商工会議所ビルにて3月度議員懇談会を開催した。

開会にあたり八木会頭は、2月2日に石田福井県知事より県内経済界へ賃上げに関する要請を受けたことに触れ、「社員の幸せなくして企業の発展はないという考えや賃上げに向けた環境整備の必要性は共通する一方、県内企業の約4割が『防衛的な賃上げ』を余儀なくされている」と述べた。賃上げができる環境創出のためには、事業の延長線上でいかに新たな価値を生み出すかが重要とした上で、当所でも行う「企業活動分析による収益力強化事業補助金」の状況について報告。県域で3年間に約1，000社を支援し、平均で12％の付加価値向上という成果を紹介し、「補助金制度の継続を県へ要望しつつ、デジタル化・省人化など企業の『稼ぐ力』を力強く後押ししていきたい」とした。

また、2月3日に福井市と締結した「人的資本経営推進に関する包括連携協定」について「全ての基盤となる人を『資産』と捉え、行政と経済界が一体となり成長できる環境づくりを推進する」と展望を語った。

続く卓話では、「論理思考だけでは勝てない時代に　0→1を生むアート思考」をテーマに、㈱E&K Associatesの代表を務める長谷川一英代表より講演があった。アート思考とは「自らの興味関心を起点に、既存の常識を超えた斬新なコンセプトを創る思考」と定義される。論理的思考が「客観的データ」、デザイン思考が「顧客ニーズ」を起点とすることに対し、アート思考は「自分の内発的動機」を軸とする点が特徴。長谷川氏が製薬企業で創薬研究に従事した経験から、新薬の成功確率が3万分の1という厳しい現実の中で、論理的思考だけでは革新的なアイデアは生まれないと実感したことが、アート思考の研究を始める起点となった。ヒット事例として花王の「ヘルシア緑茶」を紹介。飲料業界で常識だった「お茶は飲みやすいもの」から、健康機能性を付加してあえて「苦い」味が採用され、常識を覆したことがヒットの要因となった。長谷川氏は「不確実性が高い時代の中で、論理的思考への過度な依存、低リスクへの偏りといった経営常識を見直す必要がある。リソースの一部を革新的な挑戦に振り分けることが重要」とし、アート思考を取り入れ、常識を脱却することで成功の道を歩んでほしいと訴えた。

次に報告事項として、福井商工会議所が実施する体験型観光プログラム「ふくのね」の優れたプログラムを表彰する「ふくのねアワード」の結果について観光文化・地域交流委員会の池内昭彦委員長より発表があった。大賞にはバーチャルスカイ（代表：上野 浩幸氏）の「ドローンによるバーチャル飛行体験」が選ばれ、八木会頭より賞状と記念品が贈られた。

最後に、7月10日に開催予定の「商工会議所青年部全国サッカー大会福井大会」について、東昌貴実行委員長より概要説明があった。全国の商工会議所青年部会員など約1，700名が参加予定で、東委員長は「北陸新幹線開業3年目となる福井の魅力を全国の参加者に精一杯発信していきたい」と意気込みを語るとともに、協賛・協力を呼び掛けた。

㈱E & K Associatesの長谷川一英代表